

エメラルド・プリンセスの皆既日食クルーズ

会員 梅原清宏

2024年4月8日の北米皆既日食を「エメラルド・プリンセス」で観望する機会があったので、このクルーズについてレポートします。



ロサンゼルスを出港するエメラルド・プリンセスと停泊中のサファイア・プリンセス

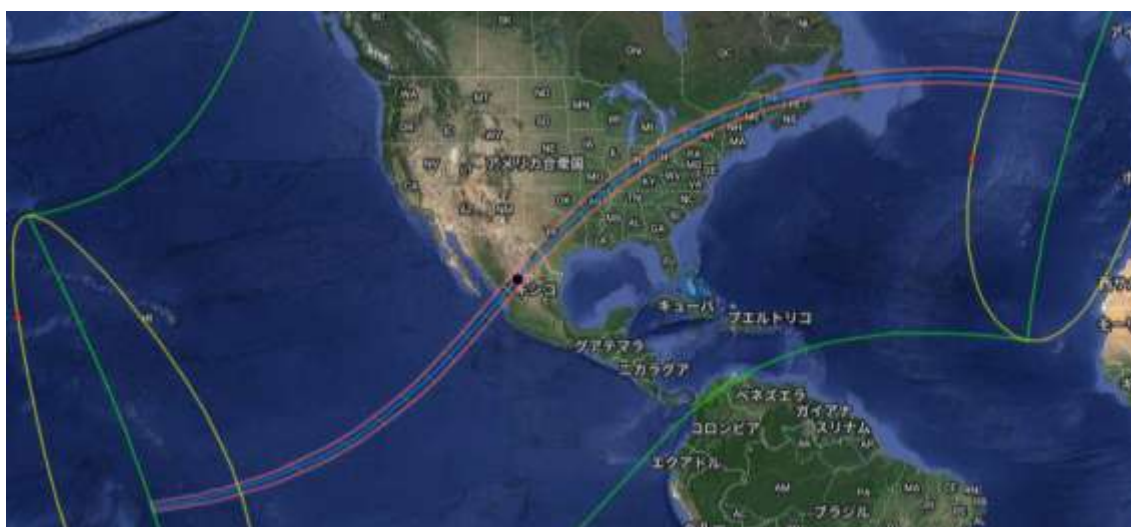
私が初めて見た皆既日食は、1991年7月11日メキシコ・ロスカボスででした。次は2009年7月22日中国・烏鎮です。この日食は、1963年7月に北海道の一部で見られて以来46年ぶりに日本で観測できる皆既日食として、大きな話題となりました。また、皆既の継続時間が最大6分30秒を超え、今世紀に起きる皆既日食の中で一番長い為、「今世紀最大の皆既日食」などと宣伝されました。ただし、皆既日食となったのは種子島南部から奄美大島北部や硫黄島に限られ、本州や沖縄では部分日食でしたが、多くの地域で天候が悪く、観測できた地域は少なかったようです。中国・烏鎮も雨模様で、皆既直前に太陽周辺の雲が切れてかろうじて見ることができました。

[「2009年7月22日皆既日蝕・船上観測の各船成否まとめ」](#)という記事によると、「ぱしふいっく びいなす」「ふじ丸」「飛鳥II」「コスタ クラシカ」「おがさわら丸」が硫黄島近海で観測に成功、「ぱしふいっく びいなす」からは皆既日食の様子がテレビ中継されました。一方、トカラ列島周辺や東シナ海周辺の「にっぽん丸」「ルーシ」「コスタ アレグラ」「さんふらわあ きりしま」「プリンセスわかさ」「ゆうとぴあ2」は曇天に阻まれたようです。尚、記事では「新鑿真」の成否が記載されていませんが、「エメラルド・プリンセス」船上で出会った日本人の方から「新鑿真」に乗船し皆既日食を見たと言いました。

この日食以外でも、「ぱしふいっく びいなす」は、2012年5月21日の金環日食クルーズや2012年11月14日のニュージーランド北方の皆既日食クルーズ、2016年3月9日のグアム沖皆既日食クルーズを行っていますので、これらの日食を船上からご覧になった会員の方もいらっしゃるでしょう。

さて、「エメラルド・プリンセス」の皆既日食クルーズに話を戻しましょう。この皆既日食は、南太平洋上から始まり、ロス・カボスの南側の海域からメキシコ、アメリカ合衆国、カナダを通過しました。皆既日食帯が北米大陸の人口密集地域を横断し、皆既の継続時間も最長4分を超えるので、非常に条件の良い日食です。日本からも多くの日食観測ツアーが企画されていたようです。

皆既帯が通るロス・カボスの南側の海域は、太陽の位置が高い正午前に皆既日食となり、晴天も期待できるため、クルーズ船からの日食観測を計画しました。2回乗船したことがある「ザンダム」のサンディエゴ発着14泊の日食クルーズはすでに完売していました。そこで、「エメラルド・プリンセス」のロサンゼルス発フォートローダーデール着15泊のパナマ運河クルーズを2023年6月16日に予約しました。バルコニー以上は完売しており、海側の部屋を予約できました。



中央の赤紫の2本の線に挟まれた場所で皆既日食が見られる。その外側は部分日食となる
出所：http://xjubier.free.fr/en/site_pages/solar_eclipses/TSE_2024_GoogleMapFull.html

このクルーズは、2024年4月5日にロサンゼルスを出港し、カボ・サン・ルーカス（メキシコ）に寄港し、翌日、皆既日食鑑賞。その後、ウアトゥルコ（メキシコ）、プンタレナス（コスタリカ）に寄港。4月15日にパナマ運河を通過して大西洋に抜け、カルタヘナ（コロンビア）、ジョージタウン（ケイマン諸島）に寄港後、4月20日フォートローダーデール着というスケジュールでした。

カボ・サン・ルーカスには、日食の前日、4月7日午後には到着。1991年7月にこの地で日食を見て以来33年ぶりの訪問は感慨深かったです。既に「コーニングスダム」とMSCの「エクスプロラ1」が停泊していました。エクスプロラ1は、MSCのラグジュアリー・マーケットをターゲットとするExplora Journeysブランドの第1船で、2023年8月に処女航海していません。



カボ・サン・ルーカス沖に停泊。前方にコーニングスダムとMSC エクスプロラ1



カボ・サン・ルーカス沖に停泊中のエクスプロラ1（総トン数64,000トン）

カボ・サン・ルーカスを午後10時に出港しましたが、この日の夜、日食観賞イベントのチラシと日食観測メガネが部屋に届きました。



プリンセス・クルーズのロゴ入り日食観測メガネ

夜が明けて、いよいよ日食当日になりました。「エメラルド・プリンセス」の乗客定員は3千名以上ですので、オープンデッキが大混雑するのではと心配でしたが、実際には比較的余裕がありました。事前の規制等もなく、自由に場所を取って、思い通りに写真撮影や鑑賞ができました。「エメラルド・プリンセス」の周囲には、「ディスカバリー・プリンセス」「コーニングスダム」「ザーンダム」などが展開していましたが、「ザーンダム」は視認できませんでした。



皆既直前のサン・デッキ16の様子。後方に見えるのは「ディスカバリー・プリンセス」



皆既中の様子。船の周りが月の影で覆われ、水平線が夕焼けのように色づいている



皆既日食の様子



第3接触（ダイヤモンドリング）

後日、日食観測証明書が届きました。証明書には、「エメラルド・プリンセス号で皆既日食を観測しました。座標 北緯21° 21.1′ 西経107° 46.2′ 2024年4月8日(月)」と書いてあります。



日食観測証明書



お土産用に船内で購入した写真

この後、船は、4月10日にウアトゥルコ、4月13日にプンタレナスに寄港しました。



ウアトゥルコに着岸中



ウアトゥルコを出港



プンタレナスに着岸中



今回のクルーズは、皆既日食観察とパナマ運河通過が最大のイベントですが、もう一つ、4月11日に「エメラルド・プリンセス」の誕生パーティがありました。プラザ・デッキ5のピアッツァにオフィサーやクルーが集い、「エメラルド・プリンセス」の形をしたバースデーケーキに船長が入刀し、皆で生誕17周年を祝いました。



誕生パーティでバースデーケーキを囲んで



バースデーケーキは、下船時まで
ピアツァに展示されていました

4月15日にパナマ運河のネオパナマックス閘門を通過しました。当日の船内新聞には、右のような通過予定スケジュールが記載されていましたが、実際には、午後4時ごろにアトランティック橋を通過しましたので、予定より順調に進んだようです。

5:45	アメリカ橋を通過
7:15	ココリ閘門に入る
10:00	ココリ閘門通過完了
10:45	センテニアル橋を通過
15:15	アグア・クララ閘門に入る
17:45	アグア・クララ閘門通過完了
18:20	アトランティック橋を通過 パナマ運河の通過完了



アメリカ橋を通過



ココリ閘門の入り口



ココリ閘門通過中



ココリ閘門通過完了



センテニアル橋を通過



チャグレス川を航行中



パナマ運河鉄道



ガトゥン湖を航行中



アグア・クララ閘門をコンテナ船が通過中



アグア・クララ閘門の入口



アグア・クララ閘門を通過中



アグア・クララ閘門の大西洋側の水門



アグア・クララ閘門通過完了



アトランティック橋を通過

パナマ運河を通過して大西洋に入りました。翌日、カルタヘナに寄港。「ロッテルダム」が停泊する埠頭の隣に着岸しました。少し離れた場所にフッティルーテンの耐氷客船「フラム」が停泊していました。フッティルーテンと言えばノルウェーの沿岸急行船のイメージしかなかったので、南米カルタヘナでフッティルーテンのクルーズ船に出会ったのは、意外な感じでした。

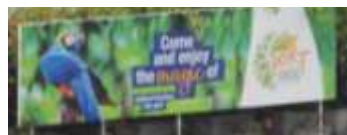
エクスカーショで訪れたカルタヘナの旧市街地は、とても印象的でした。また、クルーズターミナルには、「Port Oasis」という施設があり、美しいオウムやクジャク、小型のサルなどの動物を間近に見ることができました。



ロッテルダムの隣に着岸中



カルタヘナに停泊するフラム



Port Oasisの広告看板



最後の寄港地は、ケイマン諸島のジョージタウンです。ここは沖止めで、シャトルボートで上陸しました。「エメラルド・プリンセス」の後から、「カーニバル・サンライズ」「セレブリティ・エイペックス」が停泊しました。



シャトルボートから



カーニバル・サンライズ



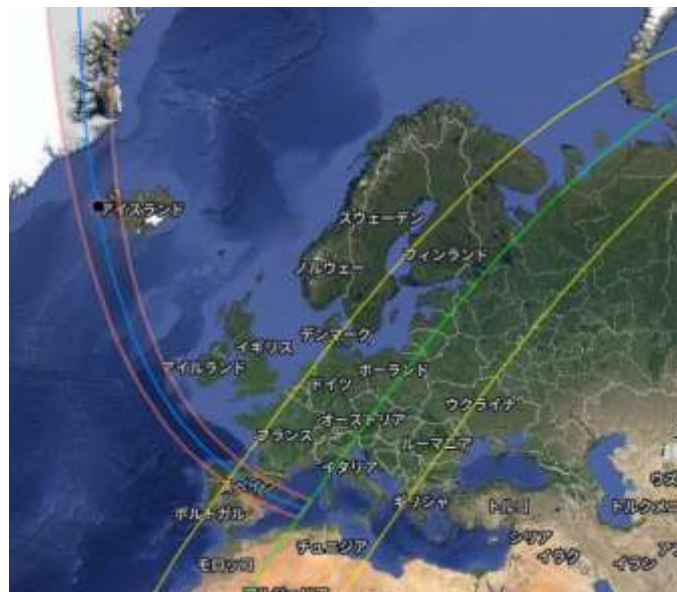
セレブリティ・エイペックス



ジョージタウン沖に停泊する3隻

4月20日にフォートローダーデールに到着し、今回のクルーズは終了しました。船上から見た皆既日食は、天候にも恵まれ、360度の水平線が夕焼けの様に色づいて素晴らしい景観でした。また、懸念していたオープンデッキの混乱もなく、落ち着いて日食を見ることができ、クルーズ船からの日食観測は快適でした。

WEB CRUISEの5月7日の「スカイ・プリンセス、2026年の皆既日食クルーズに就航」というタイトルの記事によると、2026年8月12日の皆既日食に合わせて「スカイ・プリンセス」（14万5281トン）を観察クルーズに投入するそうです。これは、今回の皆既日食で「エメラルド・プリンセス」と「ディスカバリー・プリンセス」の2隻による観察クルーズを企画、完売した実績を踏まえてとのこと。2026年8月の日食は、北極圏から南下してアイスランド西方を通り、スペイン北部を通過して地中海で終わります。スペイン辺りでは日没近くに皆既となるため、太陽の高度が低いこと、皆既日食の継続時間が2分前後と短いことが気になりますが、クルーズ船からの優雅な日食観測を検討されてはいかがでしょうか。



2026年8月12日の日食帯 スペインの西で日没を迎える

出所：http://xjubier.free.fr/en/site_pages/solar_eclipses/TSE_2026_GoogleMapFull.html